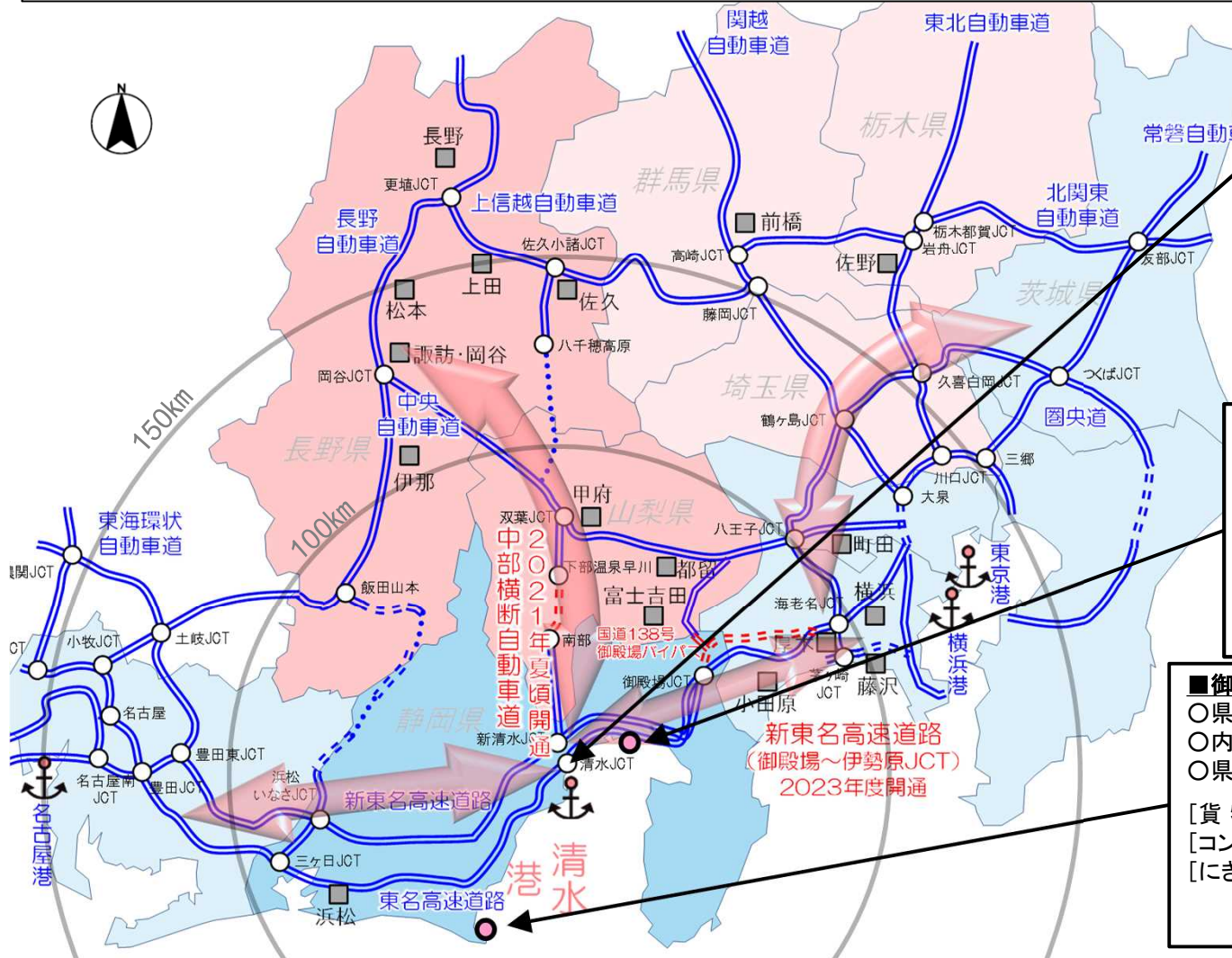


清水港 港湾計画改訂

前回改訂:平成16年(2004年)7月(目標年次:平成20年代後半)
 今回改訂:令和3年(2021年)3月(目標年次:2030年代前半)

令和3年3月8日
 交通政策審議会
 第81回港湾分科会
 資料1

- 「ものづくり県」静岡を支える清水港。背後地域には、自動車、自動二輪車、楽器、一般機械などの輸出関連企業のほか、日本の製紙産業を担う製紙工場が集積し、これら全国的にも影響力のある企業の原材料や製品の輸出入を支える物流拠点としての役割を担う。
- 高規格幹線道路ネットワークの拡大により、山梨県や長野県といった内陸県の物流を支える役割を担う。



■清水港(国際拠点港湾)

- 県産業を支える国際物流拠点
- 内貿ユニットロード拠点 (RORO船)
- LNG・石油類等のエネルギー供給拠点
- 国内外クルーズ船の受入拠点 (国際クルーズ拠点)
- 県中部地域の防災拠点

[貨物量] 外貿: 999万トン、内貿: 688万トン (R1)
 [コンテナ] 55.7万TEU (R1)
 [にぎわい] クルーズ船41回寄港 (R1)
 みなとオアシスマぐろのまち清水
 釣り文化振興モデル港

■田子の浦港(重要港湾)

- 県東部産業を支えるバルク貨物取扱拠点 (穀物、石炭、セメント)
- 県東部地域のエネルギー供給拠点 (石油類)
- 県東部地域の防災拠点港湾

[貨物量] 外貿: 91万トン内貿: 239万トン (R1)
 [コンテナ] 取扱なし
 [にぎわい] みなとオアシス田子の浦

■御前崎港(重要港湾)

- 県中西部産業を支える物流拠点 (コンテナ、完成車)
- 内貿ユニットロード拠点 (RORO船)
- 県西部地域の防災拠点港湾

[貨物量] 外貿: 166万トン、内貿: 120万トン (R1)
 [コンテナ] 4.0万TEU (R1)
 [にぎわい] クルーズ船1回寄港 (R1)
 みなとオアシス御前崎
 釣り文化振興モデル港

清水港が担う役割(静岡県の製紙産業を支えるパルプ材の輸入拠点)

- 静岡県には大手製紙会社が集積し、パルプ・紙・紙加工品製造業の製造品出荷額等は全国第1位の8,523億円。パルプ・紙・紙加工製造業の従業者数は18,588人(H30)であり、地域の雇用を支える基幹産業となっている。
- 生産量では国内3位であるが出荷額等では全国1位と生産と加工の付加価値額が高いことが特徴。
- 清水港は静岡県の製紙産業を支えるパルプ材の輸入拠点として重要な役割を担う。

○静岡県のパルプ・紙・紙加工品製造業の全国シェア

単位: 億円

	1位	製造品出荷額等	2位	製造品出荷額等	3位	製造品出荷額等
平成23年	静岡県	8,230 12.0%	愛媛県	5,207 7.6%	埼玉県	4,170 6.1%
平成24年	静岡県	7,689 11.3%	愛媛県	5,274 7.7%	埼玉県	4,544 6.7%
平成25年	静岡県	7,323 10.9%	愛媛県	5,305 7.9%	埼玉県	4,115 6.1%
平成26年	静岡県	7,642 11.0%	愛媛県	5,669 8.1%	埼玉県	4,247 6.1%
平成27年	静岡県	8,177 11.9%	愛媛県	5,202 7.6%	埼玉県	4,545 6.6%
平成28年	静岡県	8,172 11.2%	愛媛県	5,746 7.9%	埼玉県	4,464 6.1%
平成29年	静岡県	8,333 11.3%	愛媛県	5,741 7.8%	埼玉県	4,737 6.4%
平成30年	静岡県	8,523 11.3%	愛媛県	5,421 7.2%	埼玉県	5,002 6.6%

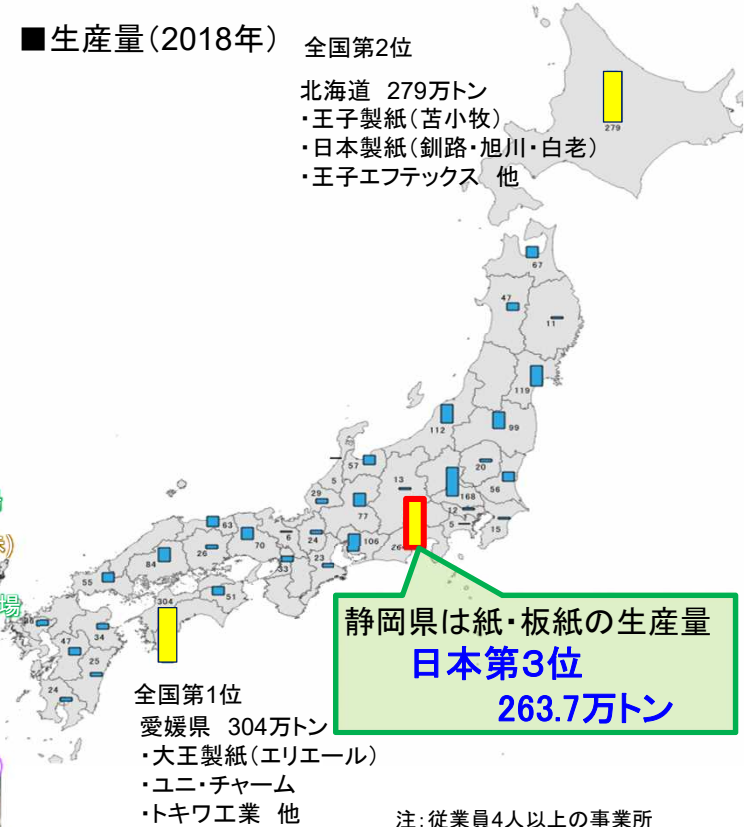
注: 従業員4人以上の事業所

静岡県製造品出荷額等
日本第1位

○県別の紙の製造品出荷額等と生産量 (2018年、万トン)

■ 生産量(2018年) 全国第2位

北海道 279万トン
・王子製紙(苫小牧)
・日本製紙(釧路・旭川・白老)
・王子エフテックス 他



○清水港周辺の主要な製紙工場

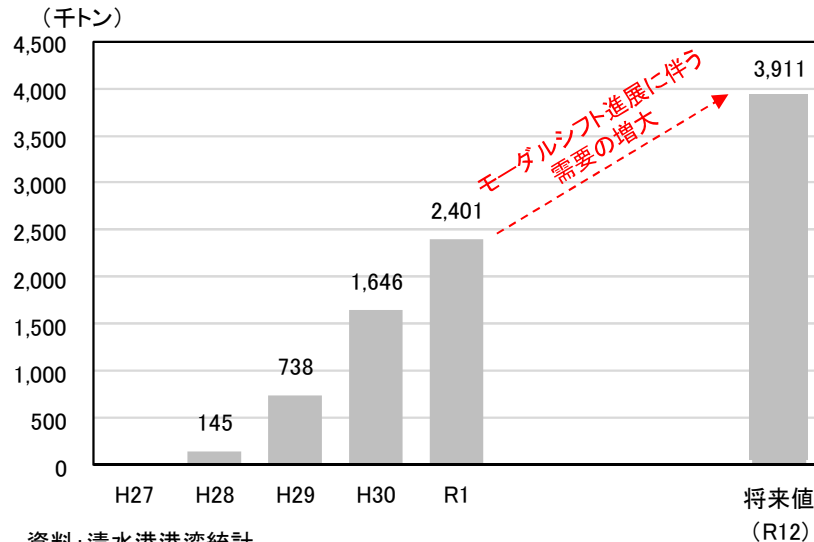


出典: 製造品出荷額等は経済産業省「工業統計」より
従業員4人以上の事業所の製造品出荷額等より作成
: 生産量は紙・板紙統計年報(2018年、日本製紙連合会)より、
連合会の会員及び協力会社を対象に
紙については計28社の工場別の生産量(全国シェア90.4%)、
板紙については計42社の工場別の生産量(全国シェア99.3%)
を都道府県別に集計し作成

清水港が担う役割(国内輸送を支えるRORO船等の複合一貫輸送の拠点) 国土交通省

- 2018年3月から清水港と九州・大分港間のRORO船定期航路がデイリー化。同年5月には苫小牧への航路も就航。RORO船航路が充実し清水港と全国各地が定期航路で結ばれている。
- 二酸化炭素の排出削減、トラックドライバー不足への対応等、様々な社会問題を解決する手段としてモーダルシフトの進展が大いに期待されている。今後、清水港の複合一貫輸送にはさらなる需要増大が見込まれている。

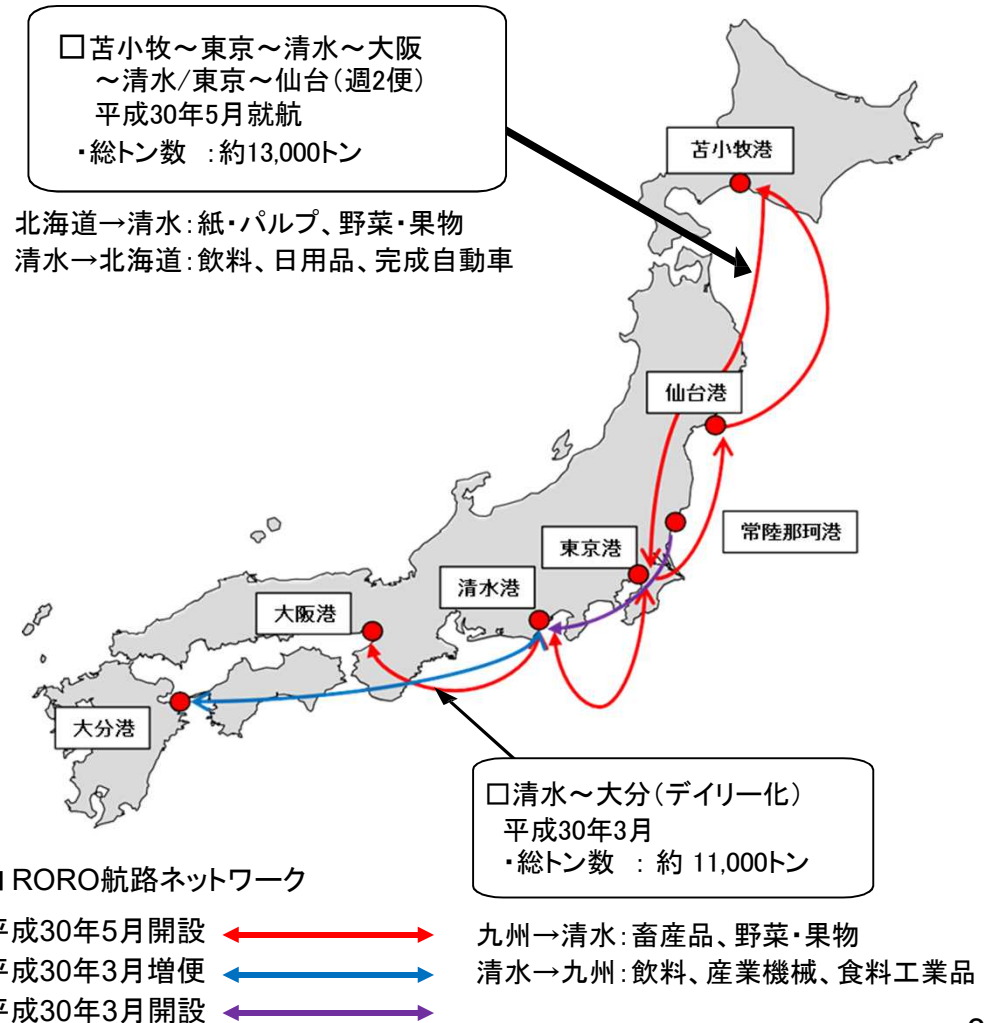
○清水港におけるRORO貨物の将来予測



○トラックドライバー需給の将来予測

	2017年度	2020年度	2025年度	2028年度
需要量	1,090,701人	1,127,246人	1,154,004人	1,174,508人
供給量	987,458人	983,188人	945,568人	896,436人
不足	▲103,243人	▲144,058人	▲208,436人	▲278,072人

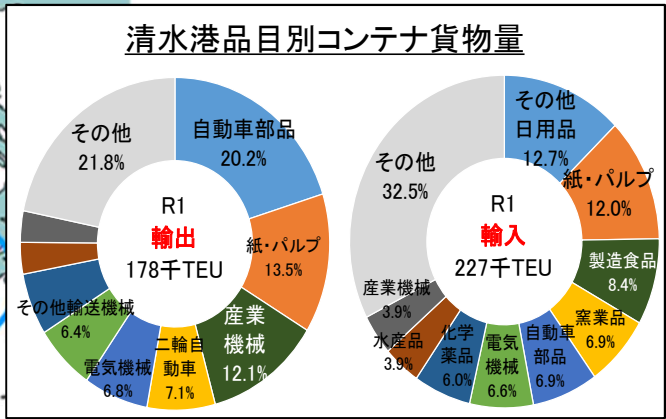
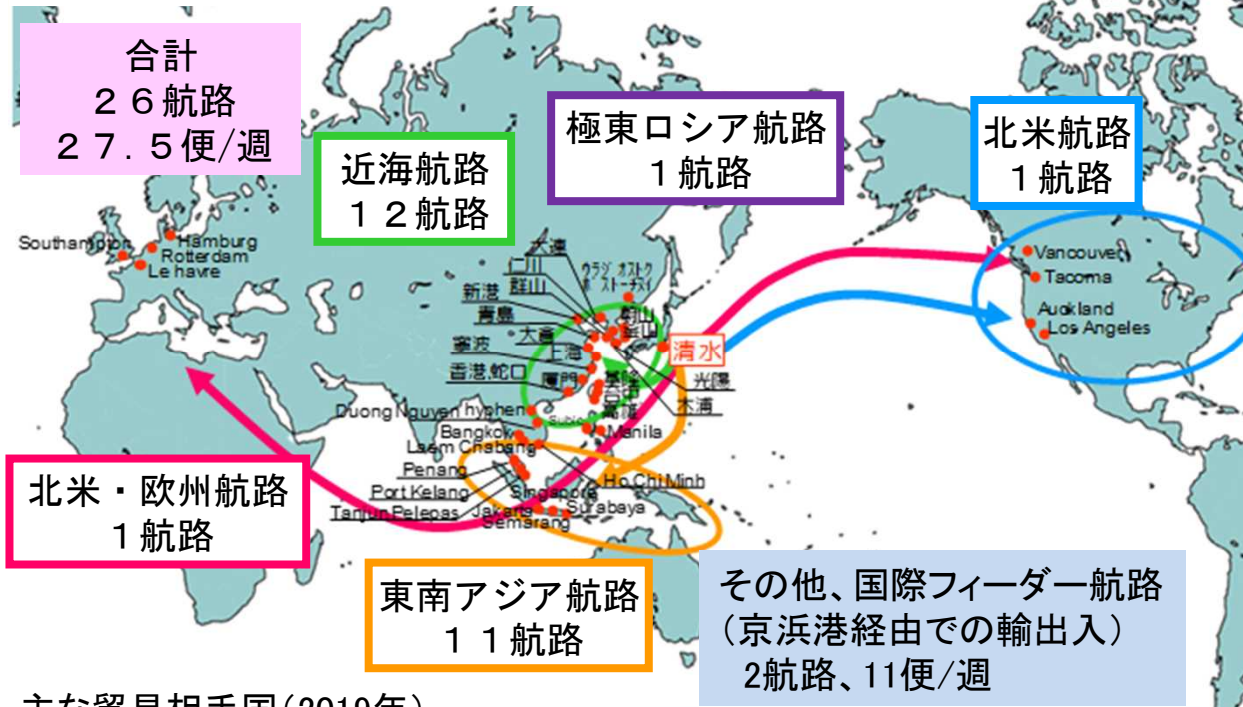
出典: 公益社団法人鉄道貨物協会「平成30年度本部委員会報告書」(令和元年5月)



清水港が担う役割(県内産業を支えるコンテナ輸送網の拠点)

- 東アジア、東南アジア方面に合計23航路を有し、また、北米、欧州、極東ロシア方面にも航路を有する。
- 2021年には、中部横断自動車道の完成が予定されており、山梨県や長野県等の内陸県から清水港へのアクセス性も向上する。

外航コンテナ航路



主な貿易相手国(2019年)

輸出 1兆8,236億円			輸入 1兆221億円		
1位	アメリカ	28.2%	1位	中国	15.3%
2位	中国	15.5%	2位	タイ	5.0%
3位	タイ	5.3%	3位	アメリカ	4.0%
4位	韓国	5.1%	4位	台湾	3.8%
5位	ベトナム	4.3%	5位	ベトナム	3.3%



清水港が担う役割(大規模災害時における輸送機能と避難機能)

- 地域防災計画における緊急輸送路に接続するため、臨港道路を緊急輸送路に指定し、耐震化に取り組んでいる。
- 「清水港みなと機能継続計画」を平成27年2月に策定し、清水港の危機対応力の強化に取り組んでいる。また、「清水港防災・減災に関する地域検討会(令和元年12月～)」などを通して、港湾関係者間の情報共有・意見交換を行い、防災対応力の強化を図っている。
- 清水港と土肥港を結ぶ駿河湾フェリーは、災害時における伊豆半島の孤立集落住民の輸送手段として期待される。



清水港が担う役割(賑わい空間)

- 富士山や三保松原など風光明媚な景観と、陸・海・空の交通拠点を有する恵まれた立地条件から、物流のみならず人流の交流拠点としての役割を担う。平成29年には国際旅客船拠点形成港湾に指定されている。
- 折戸湾は、かつての水面貯木場としての役割を終え、静穏な水面や良好な眺望を生かし交流機能への転換が検討されている。令和元年には、静岡経済同友会と地権者により、「折戸湾活性化事業基本計画」が策定された。
- クルーズが寄港する日の出地区とJR清水駅周辺の江尻地区、及び両地区を結ぶ軸の一角では、「清水都心ウォーターフロント地区」と位置付け、“みなとまち”の形成と地域振興拠点の役割を担っている。

【折戸地区】 水面を活用したリゾートの拠点

折戸湾活性化事業基本計画より



折戸湾活性化事業基本計画：「折戸湾再開発に関する提言書」（令和元年8月、静岡経済同友会静岡協議会・折戸湾沿岸部地権者有志）による

1990年（平成2年）



2018年（平成30年）



水面貯木場としての役割を終えた折戸湾。水面の活用に向けた検討・取組が進む。

【日の出地区・江尻地区】 “みなとまち”の形成、地域振興拠点

清水都心ウォーターフロント地区開発基本方針より



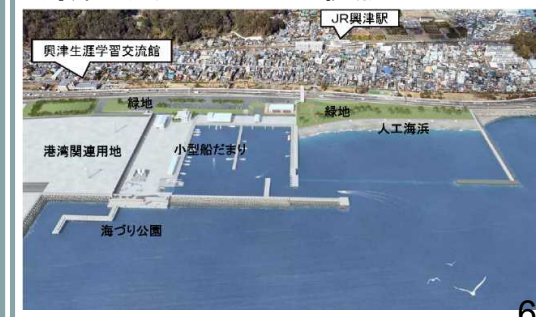
【三保地区】

海洋レクリエーションの拠点



【新興津地区】 整備中

海洋レクリエーションの拠点



清水港の目指す姿

役割

物流・産業	<ul style="list-style-type: none"> ● 県内産業を支えるコンテナ輸送網の拠点 ● 国内輸送を支えるRORO船等の複合一貫輸送の拠点 ● 製紙産業を支えるパルプ材の輸入拠点 ● 農水産物輸出の拠点 ● 化学産業を支える化学薬品や石油類の輸入拠点 ● 鉄スクラップ等循環型資源の輸出拠点 ● 都市ガス供給源となるLNGの輸入拠点 ● 海洋研究・開発の拠点
交流・生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 富士山と調和した美しい港湾景観の形成 ● クルーズ船の受入れ拠点 ● “みなとまち”の形成、交流・賑わい拠点による地域振興 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 国際旅客ターミナルを活用した交流・賑わいの拠点 ⇒ 「みなとオアシスマぐろのまち清水」を活用した交流・賑わいの拠点 ⇒ 海洋レクリエーションの拠点 ⇒ 水面を活用したリゾートの拠点
防災・危機管理等	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模災害時における幹線貨物輸送機能と緊急物資輸送機能 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 県内6港ある防災拠点港湾の1つとして、静岡県内の緊急物資需要の受入れを担う。 ⇒ 震災後、速やかに港湾物流の機能を回復 ⇒ 伊豆半島の被災者の受入れ拠点としての機能を担う。

課題及び要請

有識者(委員会等)	革新技術を導入した効率的な物流、RORO貨物への対応、人流動線の確保、防災対策、港湾景観の形成、老朽化対策、海洋研究の誘致
清水港の課題	荷役待ちの滞船解消、船舶大型化と新たな貨物への対応、バルク貨物の取扱機能向上、用地確保、研究船と貨物船の混在利用の解消
県民(パブコメ等)	防災対策の強化、水際線に憩い空間の創出、美しい景観の創造、緑の創生、“みなとまち”づくりの推進
企業(ヒアリング)	船舶大型化、新規取扱い貨物、用地・荷捌きスペース確保、高潮対策、シャーシ・空コンテナ置場確保
漁船・小型船舶(ヒアリング)	高潮対策、航路泊地の埋没対策
関連計画	北東アジアクルーズの東日本における拠点化、国際海洋文化都市・清水の推進、次世代型エネルギーの推進と地域づくり

【今回計画】

目標年次：2030年代前半

利用者が使いやすさを実感できるみなと

- 次世代高規格コンテナターミナルを形成
- 次世代高規格ROROターミナルを形成
- バルク貨物取扱機能を強化
- 海洋研究・開発拠点形成

憧れ、何度も訪れ、滞在したくなる美しいみなとまち

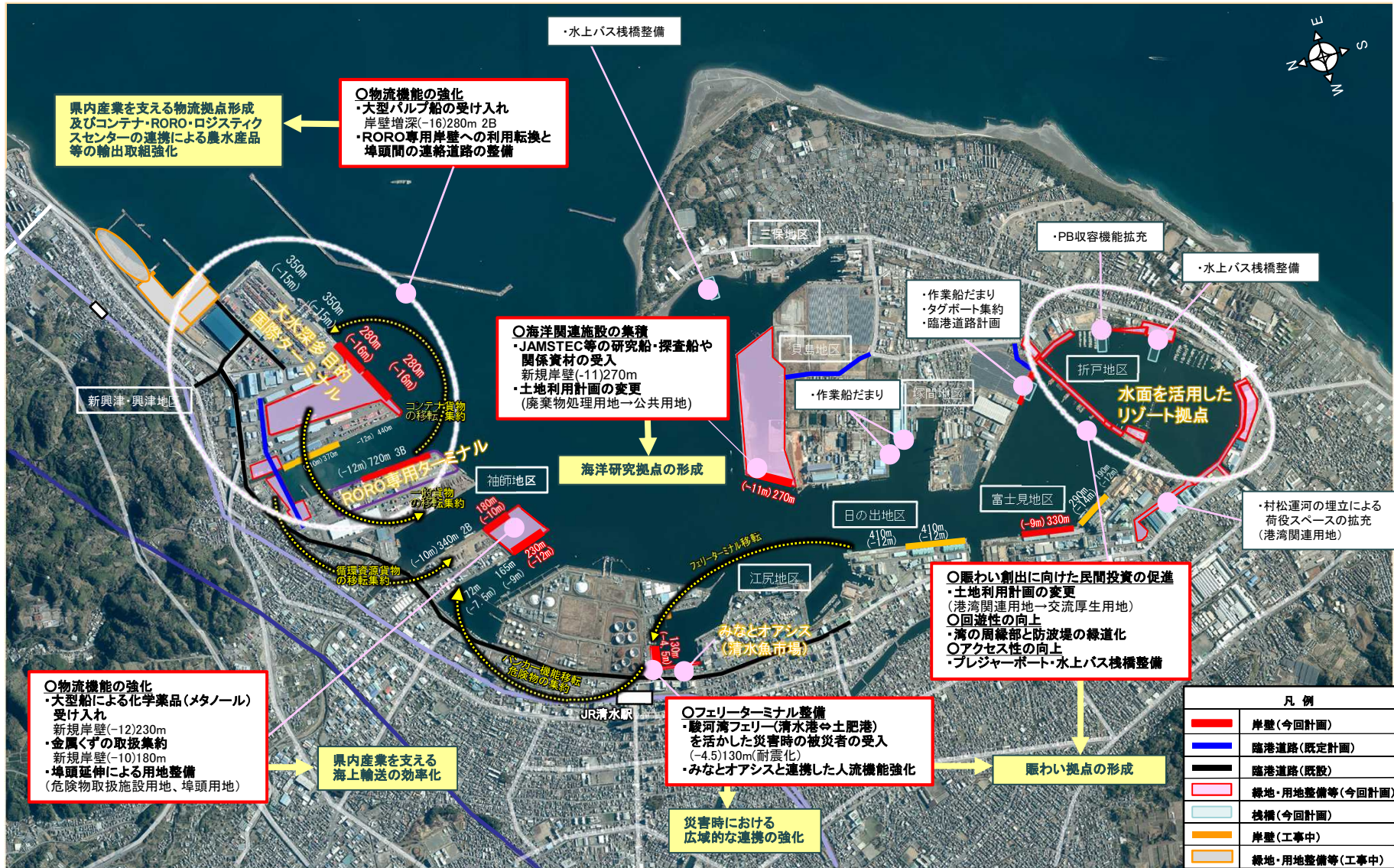
- 各地区で交流・賑わい拠点を創出
- 各拠点間のアクセス向上により地域内循環を強化

訪れ、働き、暮らす人々が安全・安心を感じられるみなとまち

- 円滑な生活物資の緊急輸送の機能を確保
- 速やかに物流を回復する機能を確保
- 災害時における広域的な連携の強化



清水港港湾計画改訂(案)の概要



○コロナウイルスの影響

(意見)現状分析として、新型コロナウイルス感染症拡大の影響をどう考慮しているのか。

(回答)物流の停滞やクルーズ船の寄港中止など不安定な情勢が生じており、リモート化、省人化など感染症拡大予防につながる対応が求められていると認識している。各種事業の実施にあたっては、これらの認識を踏まえて進めて行くこととする。

○脱炭素化への取組

(意見)脱炭素化に向けた取組の具体的な内容如何。

(回答)令和2年7月、静岡県とENEOS(株)は、清水港袖師地区での「次世代型エネルギー供給プラットフォーム」の構築と持続可能な地域づくりを目的とした協定を締結した。先ずは、協定に基づき、ENEOS(株)は太陽光発電、大型蓄電池などの最新技術や水素の活用を進めていき、ここから港全域の脱炭素化に向けて取組んでいく。

○中長期的な検討

(意見)貯木場としての役割を終えた折戸湾を賑わいに活用していくことは良いことである。

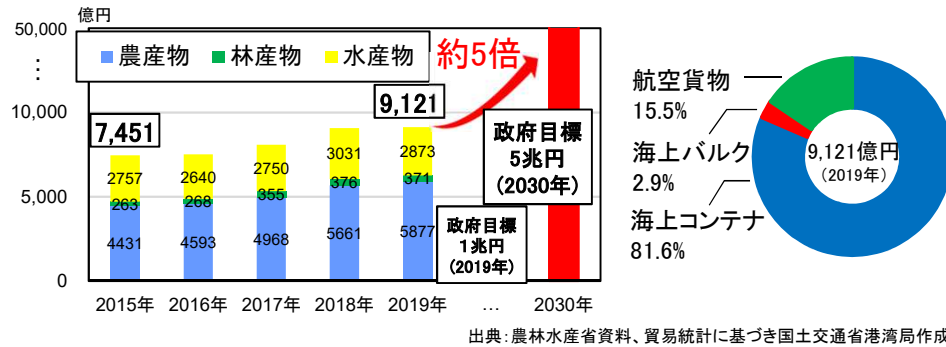
貯木場として利用されていた際の多数の杭について、費用もかかり今すぐというわけにはいかないかもしれないが、水面を海洋スポーツ等でも活用できるよう、中長期的には抜いていくべきである。

(回答)緑道など陸域の整備を進めるとともに、今後、関係者と調整しながら、水面のあり方を検討した上で、不要な杭を抜いていく。

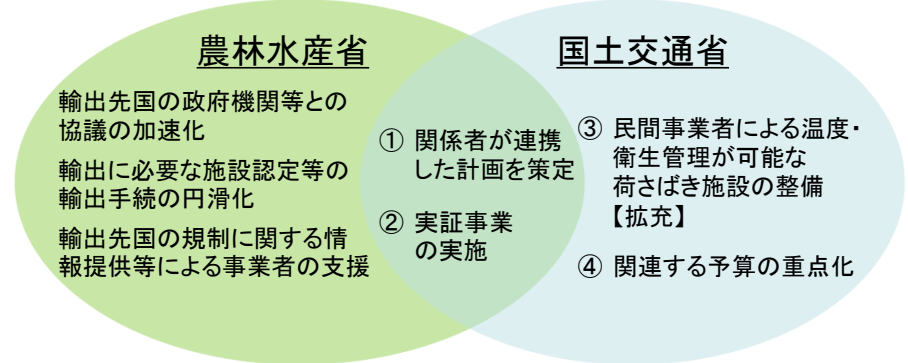
農林水産物・食品の輸出促進に向けた方針

- 2030年の農林水産物・食品の輸出額を5兆円とする政府目標の達成に向け、港湾を通じた農林水産物・食品の輸出を促進。
- なかでも、我が国から輸出される農林水産物・食品の8割が利用する海上コンテナを活用した農林水産物・食品の輸出を支援するため、農水産物の輸出に戦略的に取り組む港湾において、農水産物の輸出促進に資する港湾施設の整備支援を実施してきたところ。
- 令和3年度以降は、港湾を通じた農林水産物・食品の輸出をこれまで以上に促進するため、関連施設の整備に係る更なる支援の拡充を行っていく。

<農林水産物・食品の輸出額の推移と輸出手段別割合>



<農林水産省の取組と国土交通省が連携して推進する取組>



<具体の取組イメージ>



清水港における物流機能の強化に向けた取組

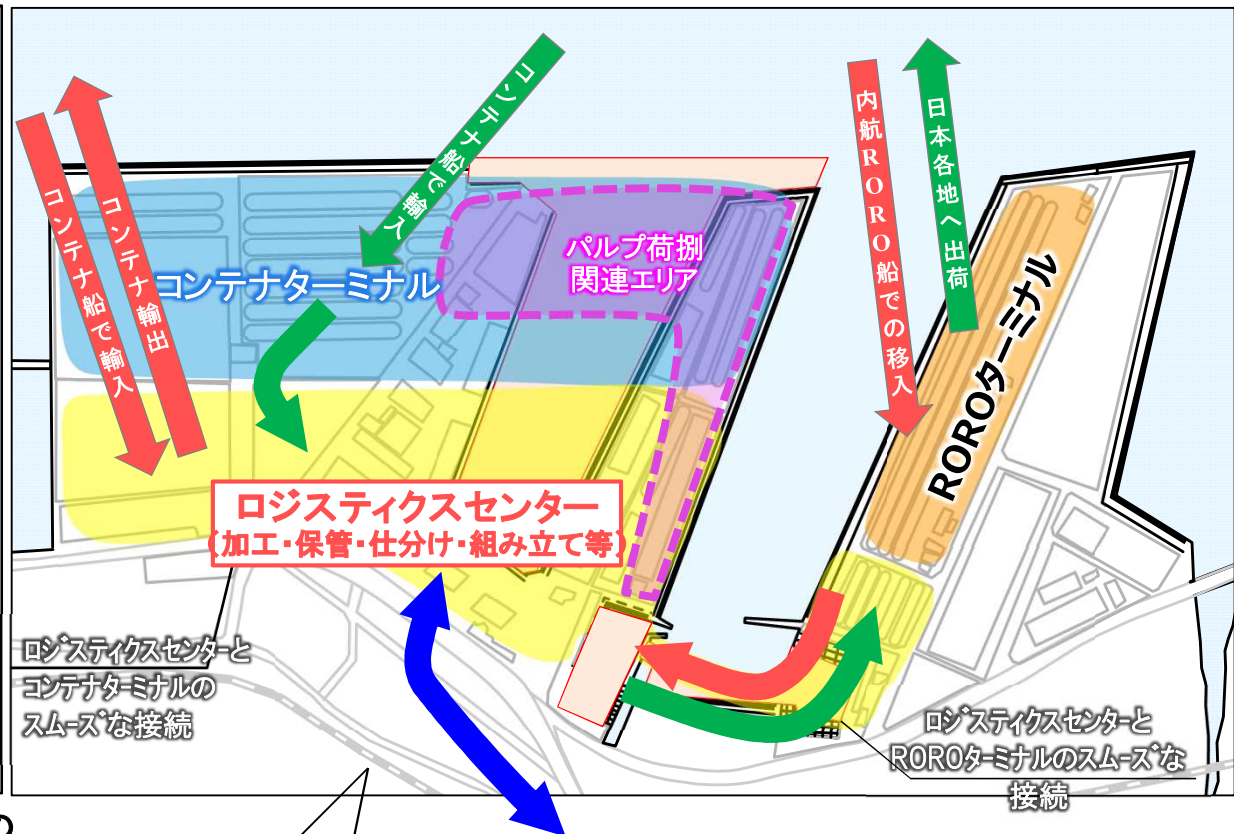
- 清水港においては、令和2年度に大分港とのRORO船航路を活用した農産物輸出の共同輸送試験を実施。中部横断自動車道の開通による背後とのアクセス向上も見込まれ、今後は、RORO船航路と内陸部とのアクセスを活かした更なる農産物輸出が期待される。
- コンテナターミナルとROROターミナルの近接性及び背後交通網との結節性の良さを活かし、ロジスティクスセンターを整備することにより、各機能が連携した物流機能の強化と利用価値の創出が期待される。

○農産物輸出の共同輸送試験(令和2年12月)



内航ROROやコンテナで移入・輸入した商品を港で組み合わせ全世界へ

コンテナで輸入された商品が港で加工され日本全国へ海上輸送



○コンテナ・RORO・ロジスティクスセンターの連携による付加価値

ワンストップサービス (止めない物流)

港(海外との結節点)の在庫拠点化による輸送効率向上

多様な輸送手段による代替輸送の確保

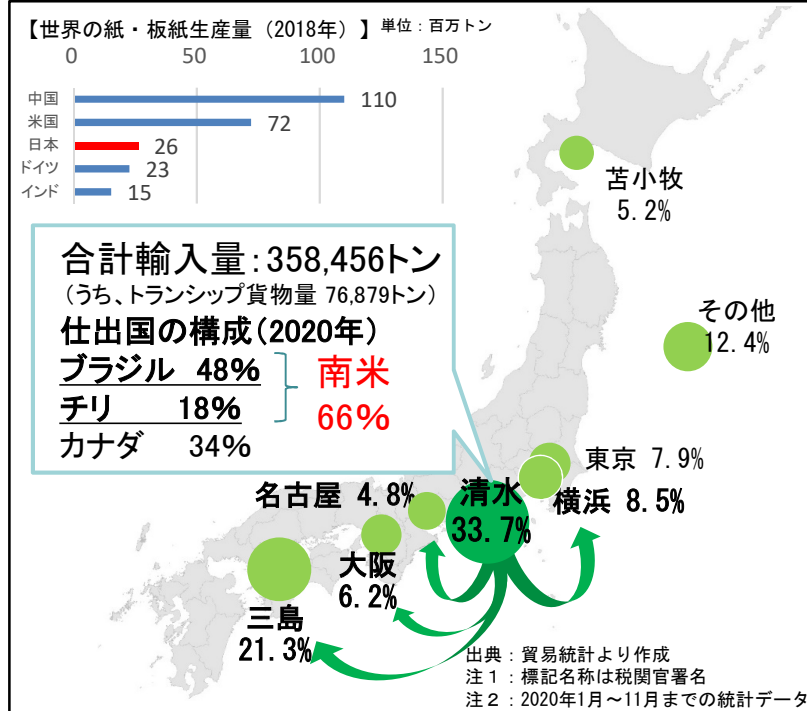
状況に応じた海上コンテナ輸送、RORO輸送、陸上輸送の切替

県内や内陸各県への出荷、供給等
高速道路隣接のインランドデポや物流拠点との連携

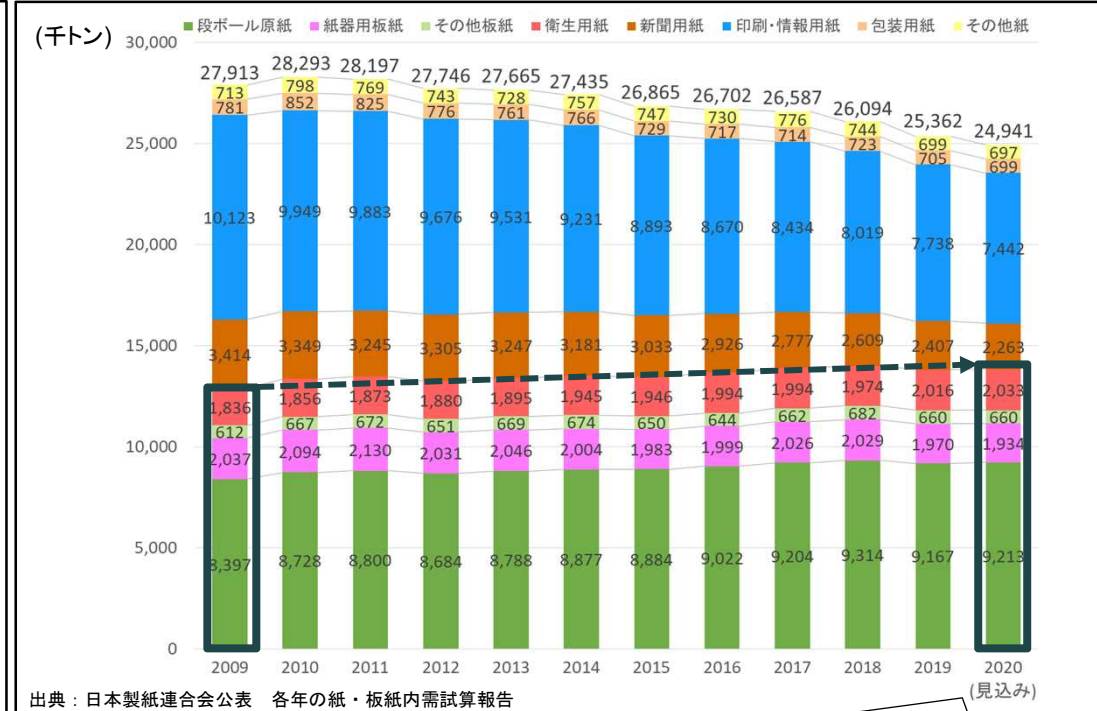
清水港におけるパルプの取り扱いについて

- 清水港は、全国のパルプ輸入の3分の1以上を扱い、その6割強は南米から大型船により輸入されている。それらの8割は背後地域に供給されるが、2割強は横浜・名古屋・大阪・三島川之江港等に移出されている。
- 全国的な紙・板紙の需要量は減少傾向にあるものの、清水港の背後地域における主な生産品である段ボール原紙や、全国的な構成比と比べ生産割合の大きい衛生用紙、脱プラへの取り組みに向けた高機能な紙器用板紙等の安定した需要が見込まれ、高品質で安価な南米産パルプの安定的な取扱が今後も期待される。

○清水港における輸入パルプの調達量



○国内の紙・板紙需要量推移

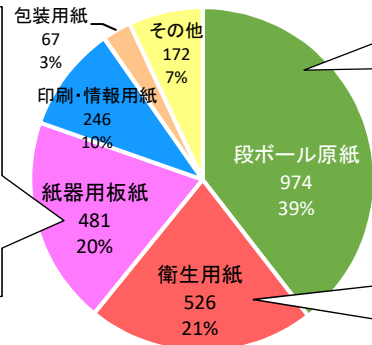


紙器用板紙

脱プラへの取り組みに伴う紙製の包装や容器への移行等により、高機能用紙による紙需要の拡大が期待。全国的な構成比と比較し生産量が多いのが特徴。



出典：「富士市の工業（2019年）」より作成
 日本製紙連合会HP
 単位：千トン



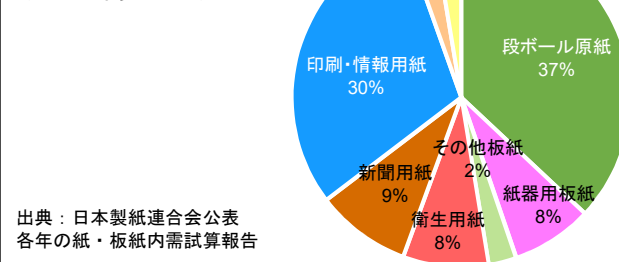
段ボール原紙

ネット通販の拡大等により安定した需要が存在

衛生用紙

ティッシュペーパー、トイレトペーパー等生産量が多いのが特徴

【品種別構成比】 (2020年見込み)

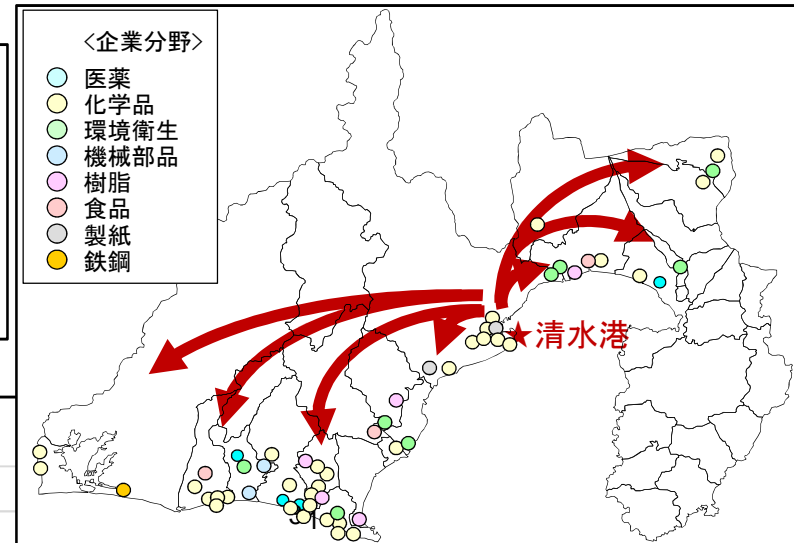


清水港におけるメタノールの取り扱いについて

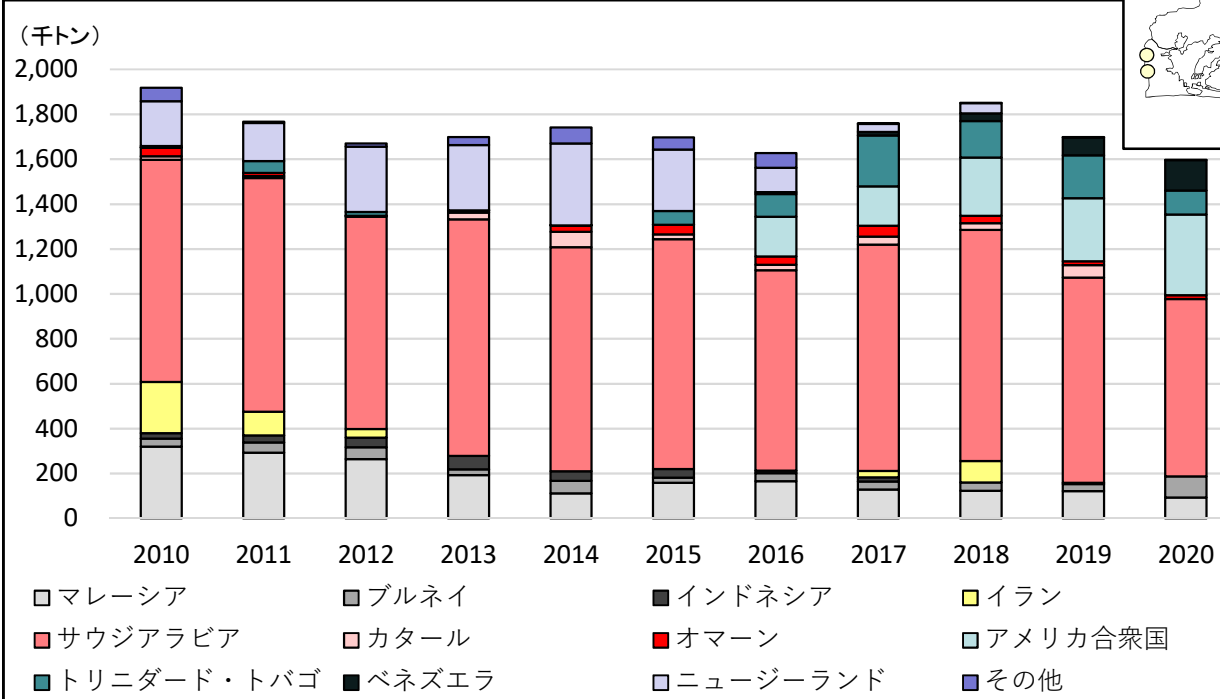
- メタノールは化学反応の溶媒として、医薬品、化学品、機械部品、樹脂、食品系等、幅広い分野で利用されている。メタノールは、全国的に安定した需要が存在するが、その9割が天然ガスから作られるため、日本は全量を輸入で賅っている。
- 清水港で取り扱うメタノールは、そのほとんどが背後の産業で用いられ、県内50以上の企業で利用されている。
- 清水港で取り扱うメタノールの約70%は中東原産であり、現在の韓国経由から大型船による直送へ切り替えることができれば、輸送コスト削減や安定的な供給体制の確保が期待できる。

○メタノールの用途

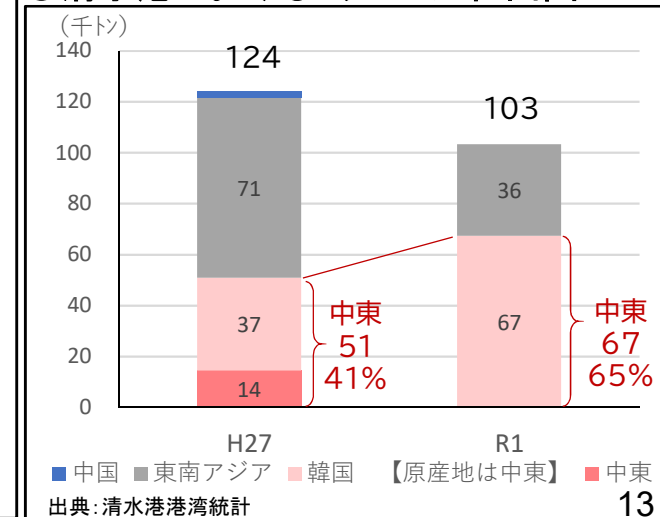
<医薬品>	<化学品>	<樹脂>	<その他>
			
錠剤コーティング剤	接着剤	樹脂製品 (写真は自動車部品)	ポリエステル繊維等



○日本のメタノール輸入量推移 (出典:貿易統計)



○清水港におけるメタノール仕出国



清水港の目指す姿と基本方針との関係

○目指す姿(前回改訂時)

- ①清水港全体での物流機能の再編
国際海上コンテナ取扱機能の拡充・強化と
臨港交通体系の強化
- ②魅力ある港湾空間の形成
旅客船やフェリー利用へ対応した交流拠点空間の形成と
プレジャーボート収容施設の整備
- ③防災機能の強化
人々に安心・安全を提供する大規模地震対策施設の強化



○目指す姿(今回計画)

- “スマートな物流”と“美しいみなとまちづくり”の実現
- ①利用者が使いやすさを実感できるみなと
次世代高規格コンテナ・ROROターミナルの形成と
バルク貨物取扱機能の強化、海洋研究・開発拠点形成
 - ②憧れ、何度も訪れ、滞在したくなる美しいみなとまち
交流・賑わい拠点の創出とアクセス性・回遊性の向上による
地域内循環の強化
 - ③訪れ、働き、暮らす人々が安全・安心を感じられるみなとまち
円滑な生活物資の緊急輸送機能の確保と
災害時における広域的な連携の強化

○基本方針の関連箇所(抜粋) 港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針(令和2年3月国土交通省港湾局)

港湾の開発、利用及び保全の方向に関する事項

(1) 我が国の産業と国民生活を支える海上輸送網の構築と物流空間の形成

- ① グローバルバリューチェーンを支える国際海上輸送網の構築と物流機能の強化
 - 国内主要港においてアジア地域との貨物輸送需要を踏まえたコンテナシャトル航路や国際フェリー・RORO航路等に対応した港湾機能の強化
- ② 資源・エネルギー・食糧の安定確保を支える国際海上輸送網の構築
 - 資源・エネルギー・食糧の受入拠点となる港湾の機能強化及び環境への負荷が少ないエネルギーの受入拠点の形成
- ③ 将来にわたり国内物流を安定的に支える国内複合一貫輸送網の構築
 - 国内複合一貫輸送網の機能強化
- ④ 我が国及び地域の基幹産業・地場産業を支える物流機能の強化と港湾空間の形成
 - 我が国及び地域の基幹産業・地場産業を維持し、民間投資及び雇用を誘発するための港湾機能の強化並びに内陸部との連携強化
 - 物流機能・産業空間の新たなニーズに柔軟に対応する港湾空間の利用再編・再開発の推進

(2) 観光立国と社会の持続的発展を支える港湾機能の強化と港湾空間の利活用

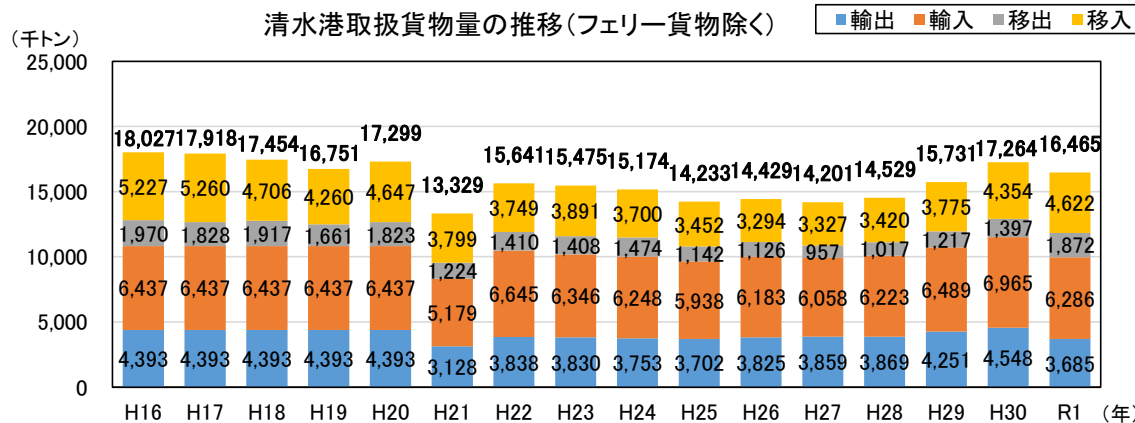
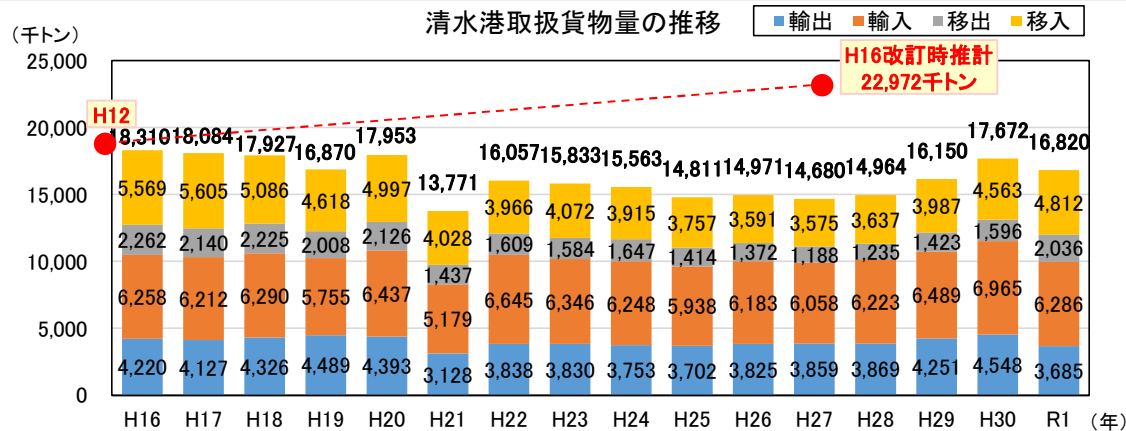
- ②観光振興及び賑わい創出に資する港湾空間の利活用
 - みなととその周辺における散策・飲食・ショッピング等の機能の確保及び地域住民との交流・賑わいの創出等、快適で利便性の高い交流空間の形成
 - クルーズ船、スーパーヨットやその他の水上交通等の多様な船舶の回遊・寄港要請への対応

(3) 国民の安全・安心を支える港湾機能・海上輸送機能の確保

- ①災害から国民の生命・財産を守り、社会経済活動を維持する港湾・輸送体系の構築
 - 災害時における緊急物資や、国際海上コンテナをはじめとする幹線貨物の一連の輸送ルート構築及び航路等の啓開体制の強化
 - 災害時における緊急物資輸送、市民の生活支援、避難誘導等に迅速に対応するため、平常時から必要な情報を共有・利活用できる体制、災害発生後に被災状況、インフラの利用可否等の情報等を遅滞なく提供できる体制等の構築

貨物の取扱状況

- 清水港の大宗貨物は、LNGの輸入、自動車部品や紙・パルプの輸出、その他輸送機械や揮発油の移入。
- LNGは県内に供給している都市ガスの原料として輸入。自動車部品は海外の工場生産している自動車の部品として輸出。
- 輸出貨物の最終仕向地は、中国が18.6%と最も多く、次いでアメリカ10.8%、ベトナム9.1%。
- 輸入貨物の最初仕出地は、オーストラリアが18.6%と最も多く、次いでマレーシア12%、アメリカ10.6%。



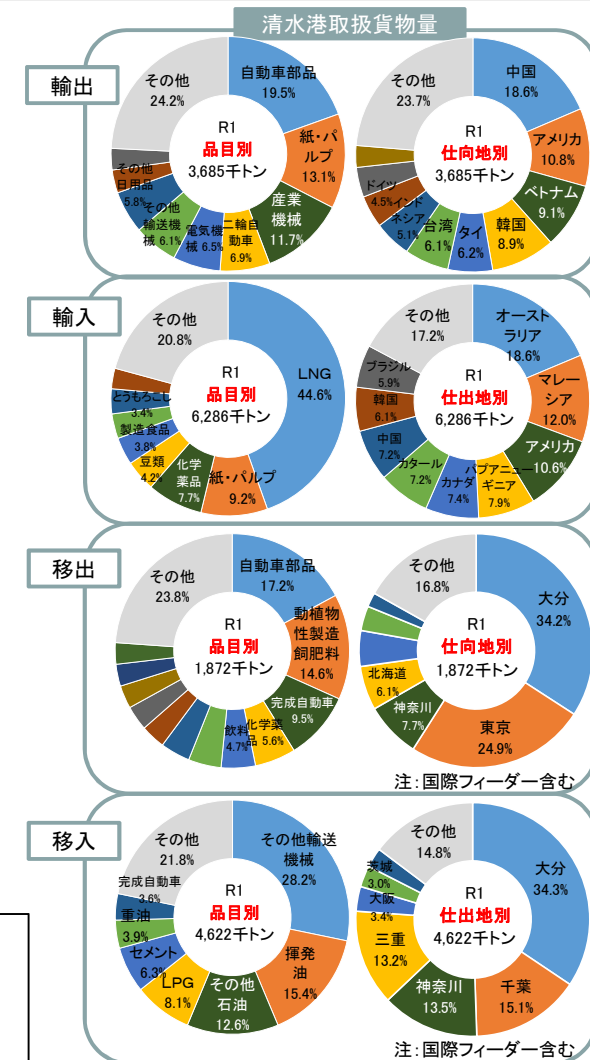
資料:清水港船舶入出港データより作成

【既定計画との相違(対H27)の要因】

○H16改訂時には、増加を見込んでいた重油と石油製品の移入が減少(企業見込みとの乖離)

重油: (H27見込み) 1,525千トン⇒(H27実績) 150千トン

石油製品: (H27見込み) 2,560千トン⇒(H27実績) 538千トン



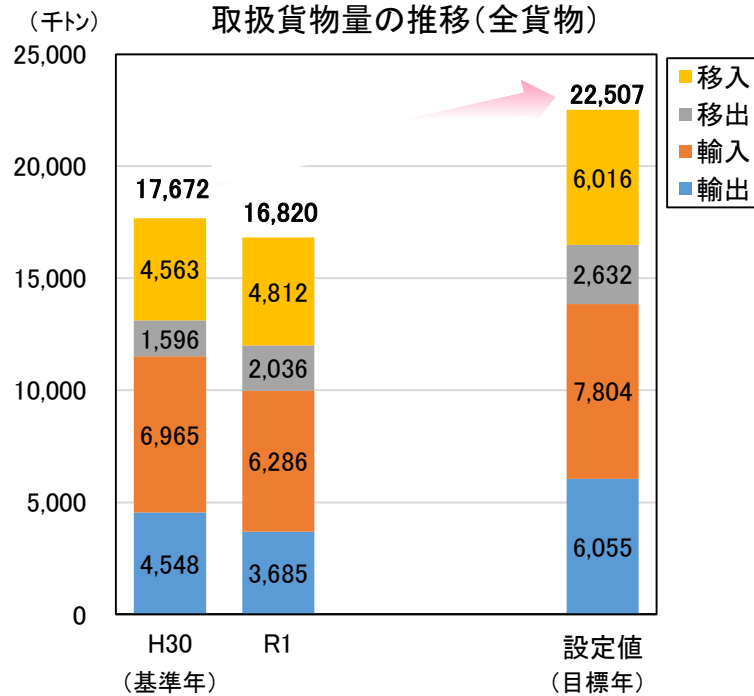
注: 国際フィーダー含む

注: 各項目フェリー貨物を除く

計画貨物量の設定

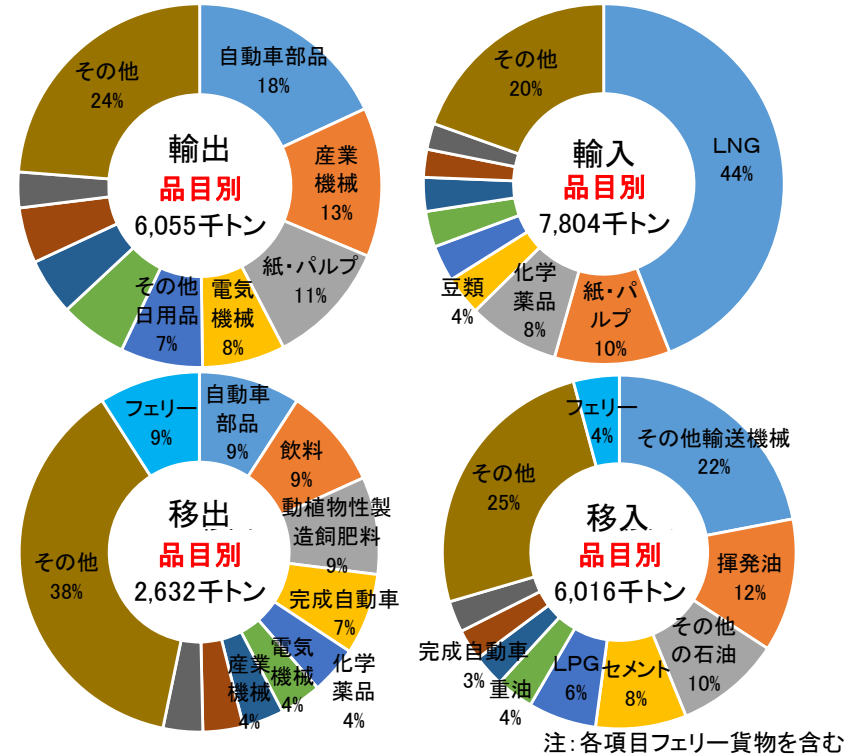
- 良質で安価な南米産輸入パルプへの需要増大に伴い紙・パルプ(輸入)で約29万トンが増加すると見込む。
- 中部横断自動車道の開通に伴い背後圏が拡大し、産業機械(輸出)で約33万トンが増加すると見込む。

●取扱貨物量の推移



資料: 清水港湾統計年報

●取扱貨物量の内訳(2030年代前半)



●増加量の多い品目と主な増加要因

品目	H30	今回の推計	増加分	主要要因
1 産業機械 輸出	469	803	334	幹線道路網充実に伴う背後圏の拡大
2 紙・パルプ 輸入	515	809	293	南米産輸入パルプ需要の増加
3 LNG 輸入	3,184	3,439	255	都市ガス供給エリアの拡大
4 その他日用品 輸出	257	443	186	コンテナ貨物需要の増加
5 電気機械 輸出	270	447	177	コンテナ貨物需要の増加

空調機器、油圧ショベル 等

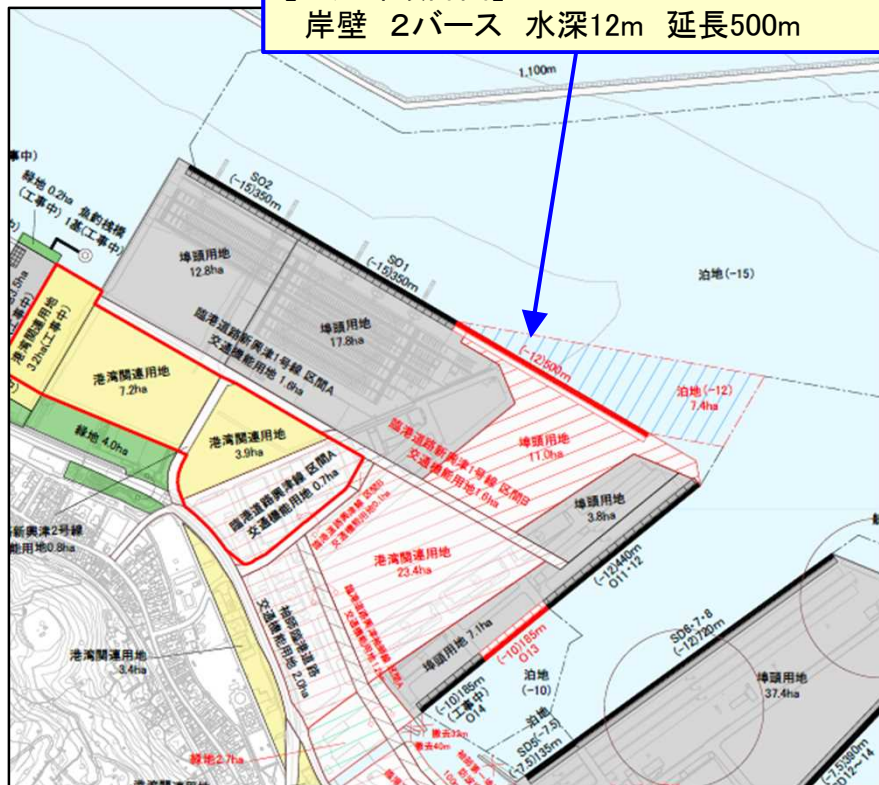
エアコン、洗濯機 等

港湾計画の内容[新興津地区・興津地区]

- パルプ船の大型化に対応した岸壁の整備

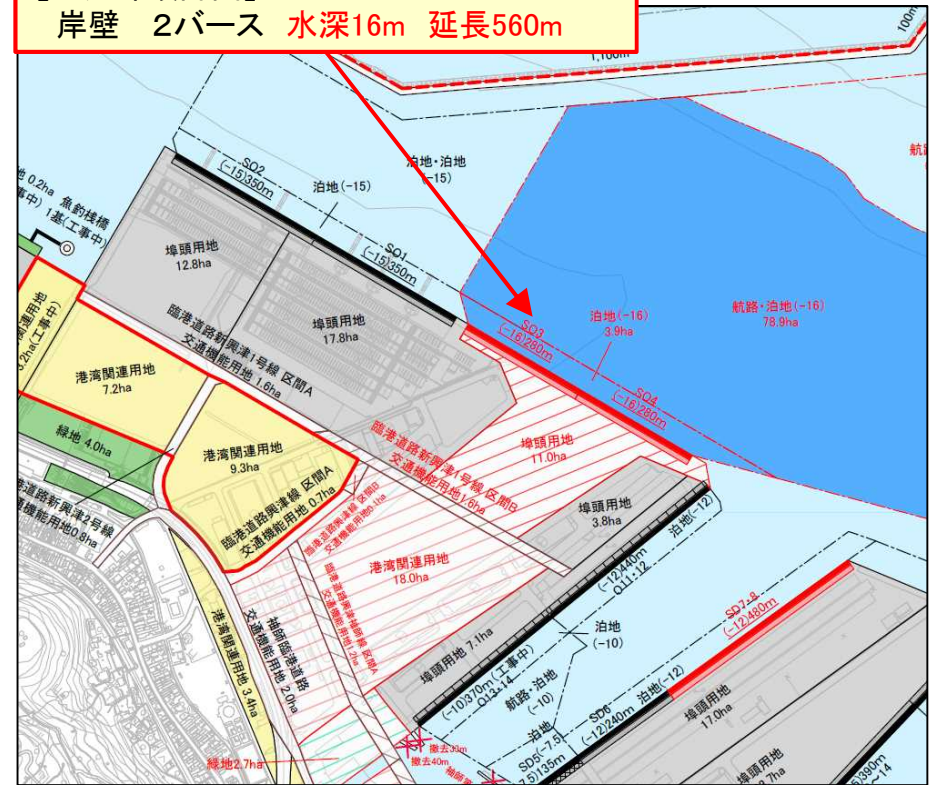
【既定計画】

【公共埠頭計画】
岸壁 2バース 水深12m 延長500m



【今回計画】

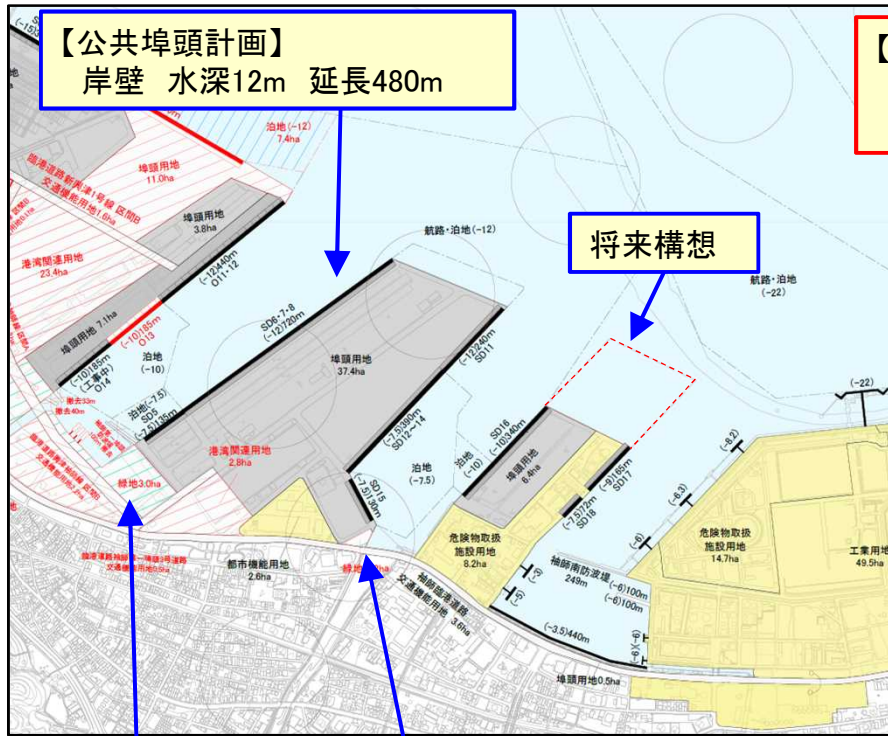
【公共埠頭計画】
岸壁 2バース 水深16m 延長560m



港湾計画の内容[袖師地区]

- 内貿ユニットロード貨物需要の増大に対応するための、RORO専用ターミナルへの転換
- 大規模災害時の物流機能の継続的な利用を目的とした耐震岸壁の整備
- 新興津地区の再編で移転が必要な循環型資源取扱機能を集約
- 江尻地区の再編で移転が必要な石油類を集約

【既定計画】



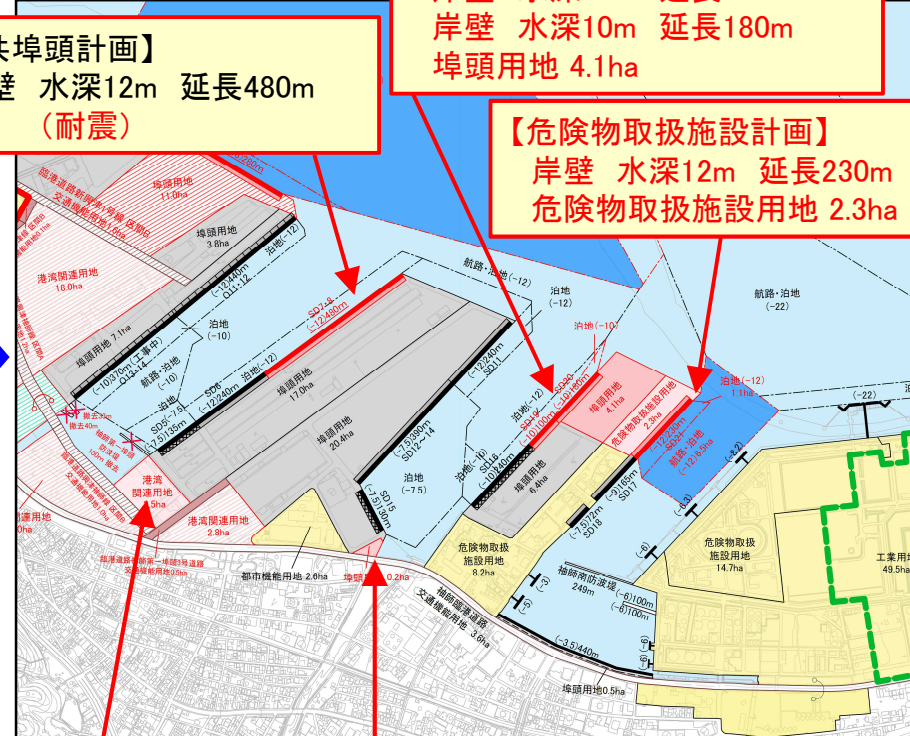
【公共埠頭計画】
岸壁 水深12m 延長480m

将来構想

【土地利用計画】
緑地 3.0ha

【土地利用計画】
緑地 0.2ha

【今回計画】



【公共埠頭計画】
岸壁 水深12m 延長480m
(耐震)

【公共埠頭計画】
岸壁 水深10m 延長100m
岸壁 水深10m 延長180m
埠頭用地 4.1ha

【危険物取扱施設計画】
岸壁 水深12m 延長230m
危険物取扱施設用地 2.3ha

【土地利用計画】
港湾関連用地 2.5ha

【土地利用計画】
埠頭用地 0.2ha

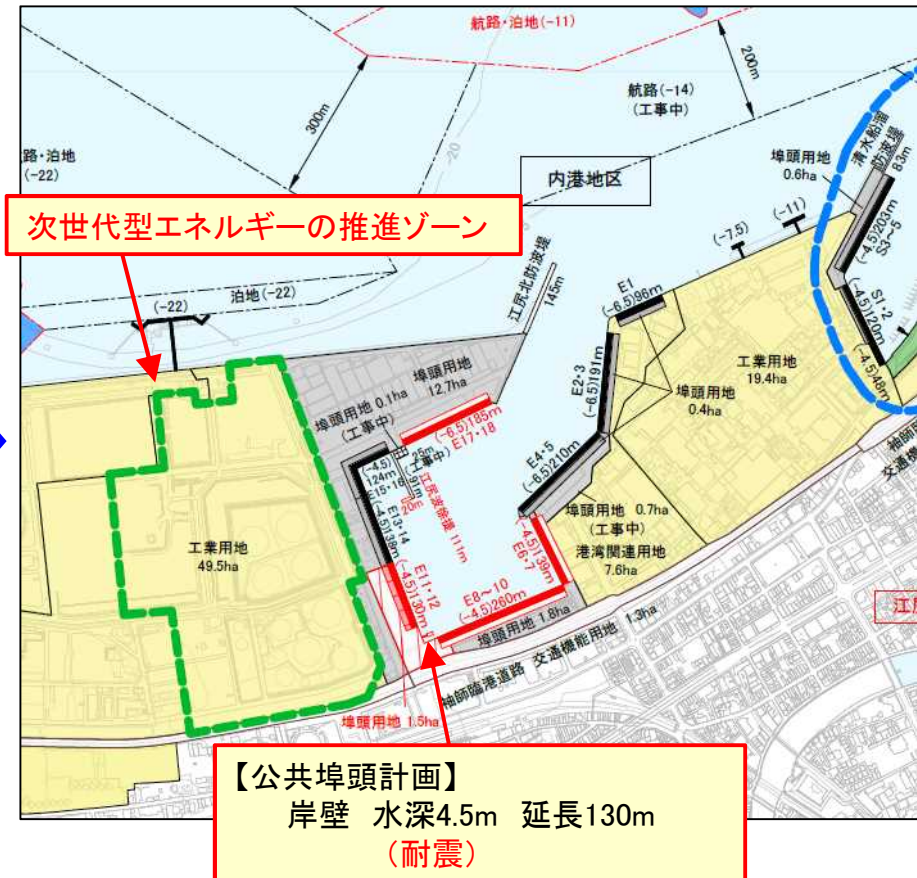
港湾計画の内容[江尻地区]

- 住民の緊急避難用岸壁に位置付け、耐震岸壁として整備
- 県、地域、地元企業が一体となって、次世代型エネルギー供給プラットフォームの構築と持続可能な地域づくりに取り組む

【既定計画】



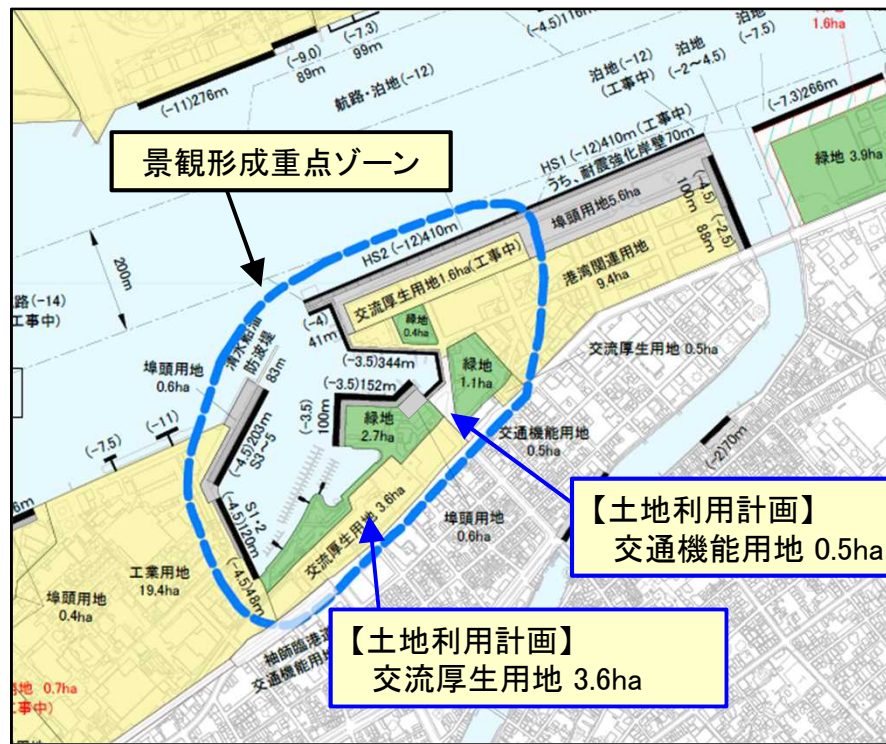
【今回計画】



港湾計画の内容[日の出地区]

- 日の出地区は、クルーズ船の受入や地域住民の交流活動の場としての利用のため、清水港の中でも特に景観に配慮すべきエリアとして景観形成重点ゾーンに位置付けられ、平成20年には景観法に基づく「静岡市景観計画」において「景観計画重点地区」として、野外広告物の配慮事項や、建築物の新築、建て替え等に関する事前届出義務が定められている。
- 引き続き、クルーズ関連計画を進めるとともに、緑地及び臨港道路の追加により、更なる賑わい空間の創出と幹線道路へのアクセス向上を図る。

【既定計画】



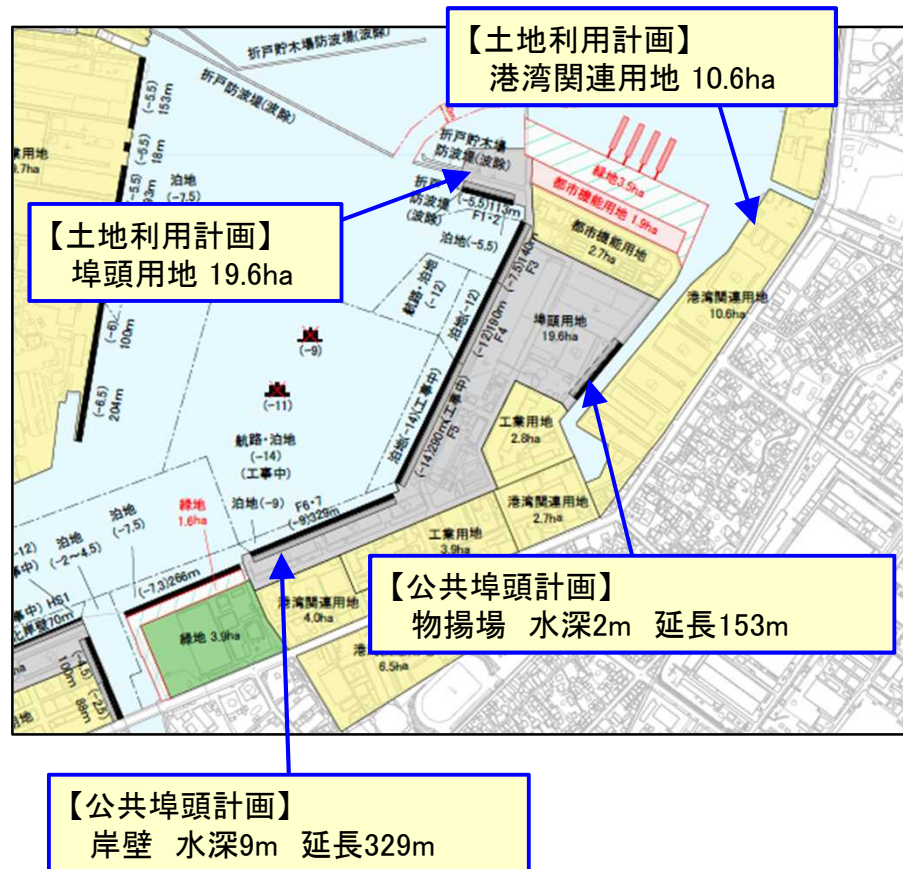
【今回計画】



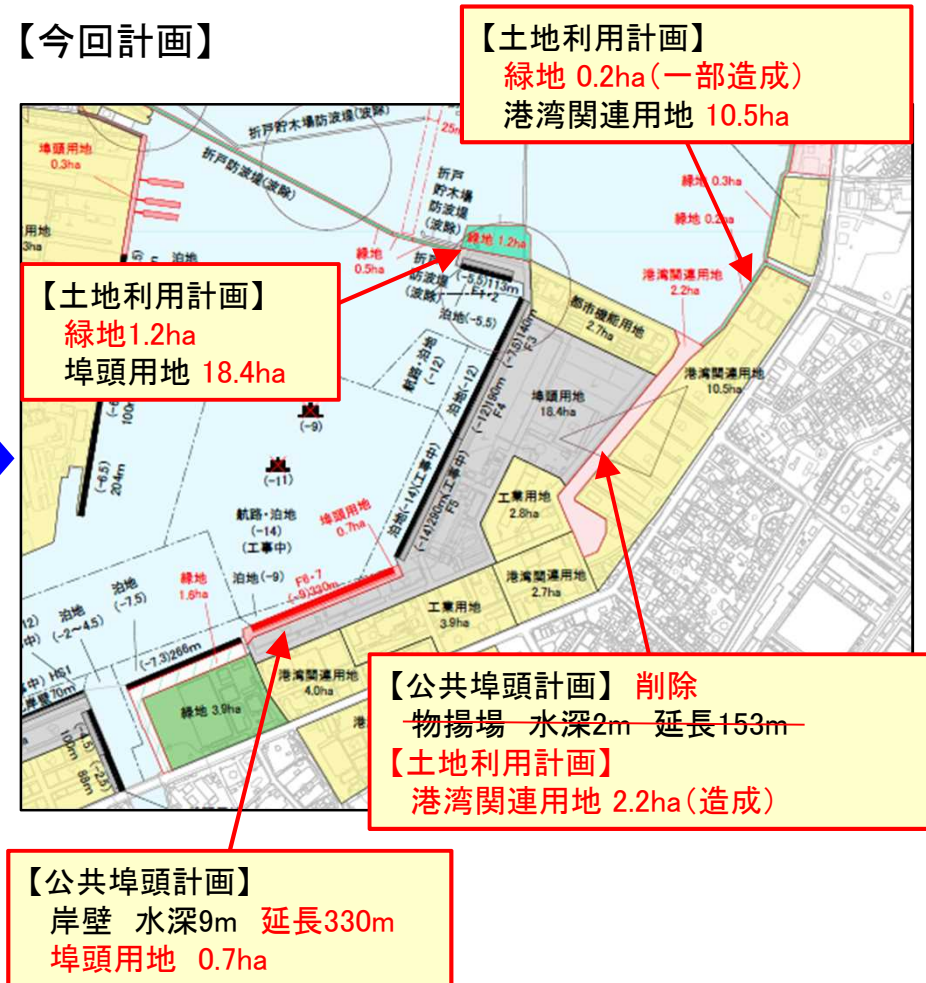
港湾計画の内容[富士見地区]

- 不足する荷捌きスペースを確保するため、既存の岸壁を前出しする。
- 取扱貨物の多様化に伴う物流用地の不足を解消するため、村松運河を埋立て、港湾関連用地を整備

【既定計画】



【今回計画】



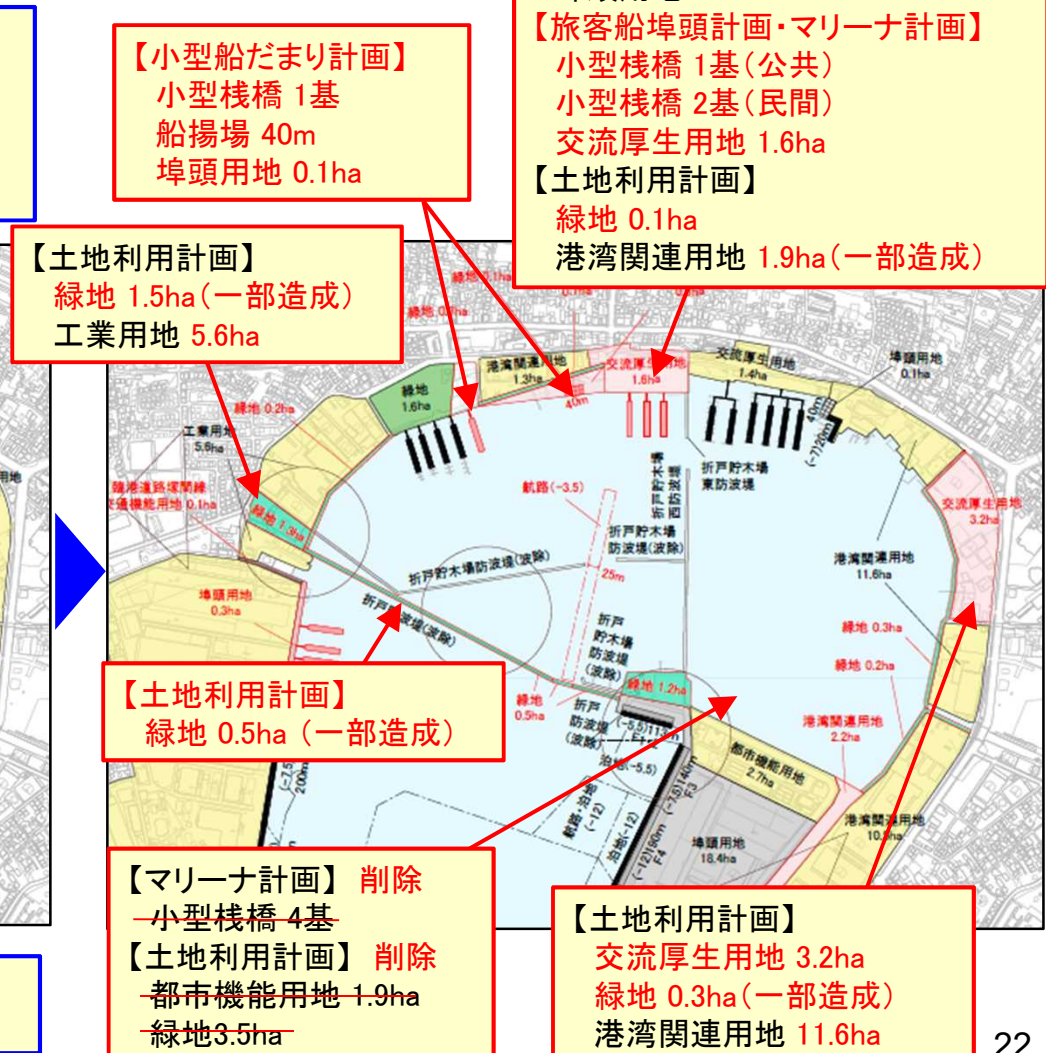
港湾計画の内容[折戸地区]

- 港内に点在するプレジャーボートの暫定係留を解消し、適正な水面利用と船舶の航行安全を確保するため、棧橋を再編
- 水面を活用したリゾート形成をするため、折戸湾を周遊できる「水辺のプロムナード」や、水上バスのための棧橋を整備
- 賑わい空間を創出するために土地利用計画を変更(交流厚生用地を位置付け)

【既定計画】



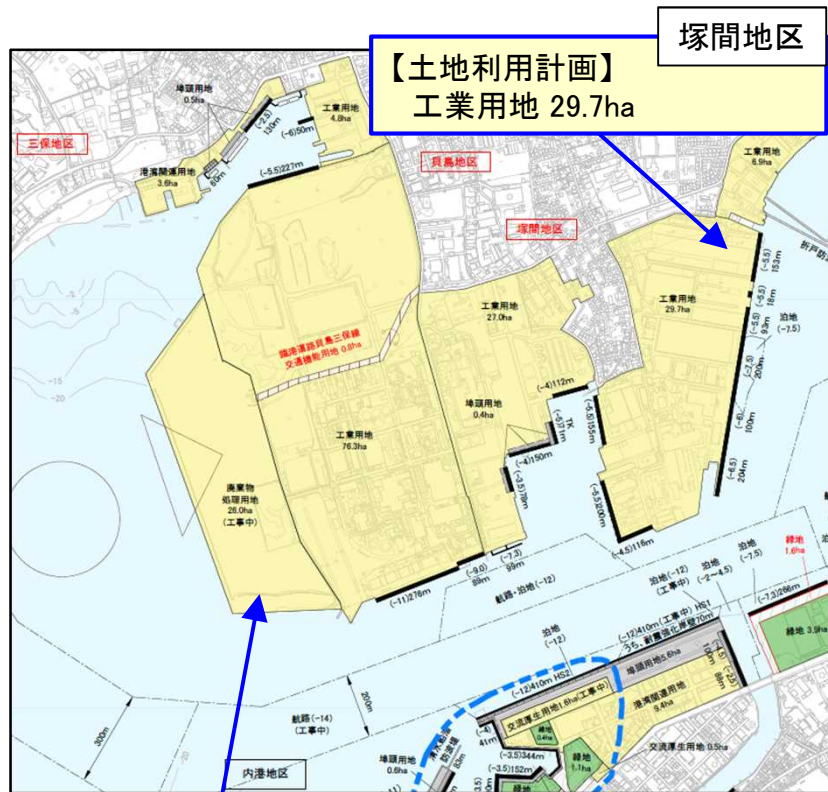
【今回計画】



港湾計画の内容[塚間地区・貝島地区・三保地区]

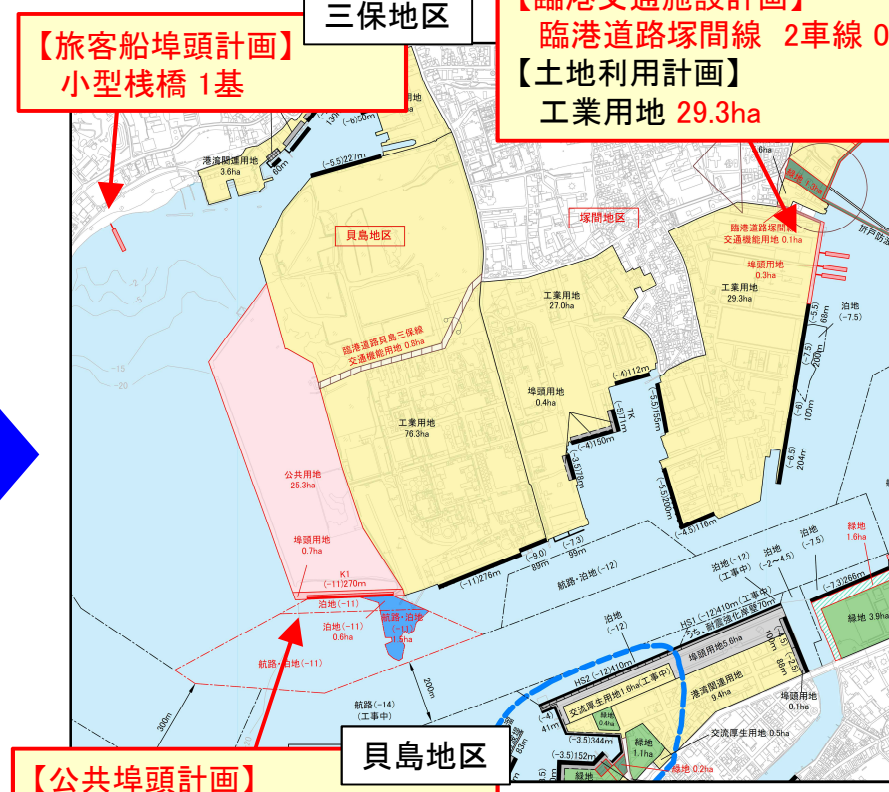
- 塚間地区では、水域の静穏性や岸壁の利用状況等を踏まえ、港内に点在するタグボートを集約
- 貝島地区では、想定される最大船舶である地球深部探査船「ちきゅう」が係留可能な岸壁を整備
- 三保地区では、マリンスポーツの拠点として、水上バス等が利用できる小型栈橋を整備

【既定計画】



【土地利用計画】
貝島地区
廃棄物処理用地 26.0ha

【今回計画】



【公共埠頭計画】
岸壁 水深11m 延長270m
埠頭用地 0.7ha
【土地利用計画】
公共用地 25.3ha

塚間地区
【小型船だまり計画】
栈橋 3基
埠頭用地 0.3ha
【臨港交通施設計画】
臨港道路塚間線 2車線 0.1ha
【土地利用計画】
工業用地 29.3ha